

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01426

研究課題名(和文) ウェストミンスター型制度・思想の日本への影響に対する解釈アプローチからの研究

研究課題名(英文) The Study by a Interpretive Approach on Influences of Westminster System and Idea to Japanese Law and Politics

研究代表者

小堀 眞裕 (Kobori, Masahiro)

立命館大学・法学部・教授

研究者番号：70253937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果としては、『英国議会「自由な解散」神話』を2019年に晃洋書房から出版した。同年、Mark Bevirを招き、日本政治学会で企画を行った。翌、2020年には、“A review of two beliefs of parliamentary government in postwar Japan”をInternational Journal of Constitutional Lawから発行することができた。同年、『立命館法学』に論文「日本型衆議院解散像とOECD諸国における立法府解散事例」を発表した。2021年には、「英国1911年議会法6条の重要性」を『立命館法学』で出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

政治学においては、新制度論とそれに基づく因果推論が研究の主流となってきた。これは、単に方法論に留まらず、一つの哲学であり、その意義と限界を探るうえでも、対抗的アプローチを探求することには、意義があった。この研究では、政治学における解釈主義的アプローチによって、日本の衆議院解散に関する考え方や、英国1911年議会法の日本の理解を明らかにする中で、そうした制度理解が一つの解釈であるということを明らかにした。また、こうした制度理解は、日本の憲法学においても、一種の憲法の普遍的価値のアプローチとして共有されてきたが、本研究は、そうした理解も、一つの日本的解釈であるという点を特に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：These books and articles can be enumerated as outcomes of this research grant: The Myth “Free Dissolution” of British Parliament, 2019; “A review of two beliefs of parliamentary government in postwar Japan: Japanese/French beliefs beneath the British canopy”, International Journal of Constitutional Law, Vol. 18, No. 1, 2020; “the Japanese Ideal type of a Dissolution of the House of Representatives, Compared with Cases in the OECD countries”, Ritsumeikan Hogaku, No. 3, 2020; “The Significance of Section 6 of the Parliament Act 1911”, Ritsumeikan Hogaku, 5 & 6, 2021. Also we invited to a panel of the Japanese Political Science Conference 2019 Professor Mark Bevir (U. C. Berkeley) who was one of prominent advocators of a Interpretivism in Political Science; obviously this event had a big contribution to the development of Japanese political science.

研究分野：政治学

キーワード：ウェストミンスター イギリス フランス 日本 議会 解散

1. 研究開始当初の背景

長年英国政治を研究していると、日本で言われている議院内閣制や「自由な解散」という表現は、英語文献で存在しないだけでなく、そういう考え方も取られていないことを知るに至った。日本では、英国政治の憲法的部分は、憲法学者によって研究されたということになっていたが、それらを再検討する必要性を感じていた。また、日本の政治学では、ウェストミンスター・モデルというものが存在するかのごとく言われてきたが、それに関しても英国自体にある議論とは異なる点もあり、それも研究する必要性を感じていた。

2. 研究の目的

日本の政治制度(統治機構)に関しては、憲法学者が中心に研究を行ってきた。議院内閣制、解散権、立憲主義などの様々な部分においてウェストミンスター型政治制度を受け継いだと憲法学は説明し、日本政治学もそれを前提としてきた。しかし、実際にはそれは日本的独自理解であったにもかかわらず、その独特な理解も含めて、西欧と変わらぬ、「制度」自体であると誤解してきた面があった(誤解の「神話」化)。本研究では、その「神話」が生まれ定着してきた歴史を解明する。日本に関する制度論が「制度」だと思ってきたものが実は「思想」であったということ进行を明らかにする。こうした問題を明らかにする際に適切な方法として、「解釈主義アプローチ」interpretive approach を使う。

3. 研究の方法

本研究の研究方法を一言で言い表すならば、「解釈主義アプローチ」である。解釈主義とは、研究者であれ、政治家であれ、官僚であれ、およそ人間が社会を観察し、それに関与する際には、それぞれの人間による解釈があり、そこにおいては、どの立場の人々も一致する「純粋な事実」、「客観的な事実」の把握はありえないとする、一つの哲学である。把握されたものは全て社会的に構成され、誰かに解釈されたものである、という考え方が、解釈主義の考え方である。解釈がいかに不可避であるかについては、解釈主義の祖の一人であるクリフォード・ギアーツの言葉を借りよう。「研究全体のうちで岩石のように堅い、確固とした事実の面においても、われわれはすでに解釈をしているのであり、さらに、解釈について解釈をしているのである」

政治学では、新制度論において、こうした事物・事象を客観的に存在するものとして扱うことが多かったが、それを批判するアプローチと言ってもよいだろう。具体的には、議院内閣制や議会の解散などにおいて、必ずしも客観的な法則があるわけではなく、そうした「法則」「本質」と言われてきたものが、実は、行為者や学者たちの解釈であり、ビリーフであったということを、当時の文献や史料にあたって明らかにしていくことに注力した。

4. 研究成果

研究成果としては、拙著『英国議会「自由な解散」神話』を2019年に晃洋書房から出版した。さらにこの年、解釈主義政治学で世界的に有名な Mark Bevir を招き、日本政治学会で学术交流企画を行った。翌、2020年には、「A review of two beliefs of parliamentary government in postwar Japan: Japanese/French beliefs beneath the British canopy」を *International Journal of Constitutional Law* から発行することができた。当初の研究計画の予定であれば、さらにあと一つ、立憲主義を政治学的見地から検討する企画を予定していたが、2020年初からのコロナウィルス感染拡大などの状況により、さらに進めることには困難があった。そのほか、2020年は、『立命館法学』に論文「日本型衆議院解散像と OECD 諸国における立法府解散事例——「内的視点」「外的視点」からの検討——」を発表した。2021年には、「英国1911年議会法6条の重要性」を『立命館法学』で出版した。全体として、長らく日本では、英国モデルを一つの普遍として考え、それを日本が継受したという説明がなされてきたが、実際のところ、日本が採用した憲法モデルは、きわめてフランス的な解釈であり、英国の憲法習律を見落として論理のみで構成されてきたものであったということ进行を明らかにした。

論文

小堀眞裕 単著 「上下両院同日選挙・別時期選挙に関する日豪理解の違い 解釈主義によるビリーフの考察」 2020年3月「立命館法学(2019年5・6),73-103頁」

Masahiro Kobori 単著 "A review of two beliefs of parliamentary government in postwar Japan: Japanese/French beliefs beneath the British canopy" 査読有 2020年5月,

小堀眞裕 単著「日本型衆議院解散像と OECD 諸国における立法府解散事例」2020 年 12 月『立命館法学』2020 年(3),307-359 頁(立命館大学法学会)

小堀眞裕 単著「英国 1911 年議会法 6 条の重要性：金銭法案ではない「歳入法案」に関わる習律の問題」2022 年 3 月 『立命館法学』(3),378-403 頁

著書

小堀眞裕 単著『英国議会「自由な解散」神話—解釈主義政治学からの一元型議院内閣制批判—』2019 年 10 月 晃洋書房 (1-231 頁)

研究報告

Masahiro Kobori “The Review on Two Beliefs of Parliamentary Government in the Post-war Japanese Constitutional Study: Japanese/French Beliefs beneath the British Canopy”
The 25th IPSA World Congress of Political Science 2018 年 7 月 25 日

Masahiro Kobori “Separate Bicameral Elections: A Comparison of Japan and Australia”
the Australian Political Studies Association Annual Conference 2017 年 9 月 26 日

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 小堀眞裕	4. 巻 3
2. 論文標題 日本型衆議院解散像とOECD 諸国における立法府解散事例 「内的視点」「外的視点」からの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 307-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小堀眞裕	4. 巻 387・388
2. 論文標題 上下両院同日選挙・別時期選挙に関する 日豪理解の違い 解釈主義によるピリーフの考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 73～103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Masahiro Kobori	4. 巻 18
2. 論文標題 A review of two beliefs of parliamentary government in postwar Japan: Japanese/French beliefs beneath the British canopy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Constitutional Law	6. 最初と最後の頁 1～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/icon/moaa007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小堀眞裕	4. 巻 5・6
2. 論文標題 英国1911年議会法6条の重要性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 378、403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小堀真裕
2. 発表標題 OECD諸国における国政選挙タイミングの比較研究 「内的視点」「外的視点」からの検討
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masahiro Kobori
2. 発表標題 A Japanese Version of 'Westminster model': The Belief of 'Decisive Lower House' in the Democratic Party of Japan and its Genealogy
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Kobori
2. 発表標題 The Review of Two Beliefs of Parliamentary Government in Postwar Japan: Japanese/French Beliefs beneath the British Canopy
3. 学会等名 International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小堀真裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 233
3. 書名 英国議会「自由な解散」神話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------